

女子リーグ「クイーン・リーグ（Qリーグ）」、中学生リーグ「ニュー・エイジ・リーグ（Nリーグ）」

2023-2024 シーズン第9戦：わたらせクリテリウム第2戦・詳細レポート

9月16日（土）、栃木県栃木市藤岡町の藤岡渡良瀬運動公園内わたらせサイクルパークにおいて「わたらせクリテリウム第2戦」が開催された。



エスポワール B クラスのスタート（photo: QN リーグ事務局）

わたらせサイクルパークの完全クローズされた1周回＝約1.1kmを走るクリテリウムレースは宇都宮ブリッツェン主催で昨年からシリーズ開催。朝から穏やかな天候に恵まれた会場では、弊リーグ主催のスクール企画「スキルアップ！ロードレーススクール」を併催。さらに名物の出店ブースや地元TV収録やトークショー、宇都宮ブリッツェン所属の堀 孝明選手と小野寺 玲選手の登場もあり各クラスともレースが大いに盛り上がった。



TV収録トークショーや人気のメニューが並ぶフードトラックも（photo:わたらせクリテリウム大会事務局）

朝から穏やかな天候とはいえかなりの蒸し暑い残暑のなか、今回も午前中は弊リーグ主催「スキルアップ！ロードレーススクール」を開講。今回はキッズ受講者が多かった。事前にアンケートで教えてほしいことを確認していたので、9時30分の準備運動から始まったスクールメソッドはそれに応える内容。スムーズなコーナリングの入り方や、集団できれいに並走する方法も指導。特に集団走行ではブレーキだけでなく、ペダルの回転や踏むタイミングでスピード調整しながら、前走者との間隔を保つスキルを覚えてもらった。



コーナリングや前後の距離感、ボトル渡しなどで自転車コントロールを学ぶ (photo: QN リーグ事務局)

暑いのでこまめに途中休憩を挟みながら、ボトル渡しやゲームも交えて自転車を安全に楽しくコントロールする術を覚えてもらい、約2時間のスクールを終えた。この後、秋から冬にかけてはシクロクロスに関するスクールを実施する予定で、今後も広い年齢層とさまざまな自転車歴の方々に向けた、きめ細かい対応のできるスクールを続けていきたい。



さまざまなブースが出展。スクール用コースは午後から自由走行エリアに (photo: QN リーグ事務局)

午前中のレースは、カテゴリー別クラスの後にはキッズレースや女子ビギナーと続く。宇都宮ブリッツェンのゲストライダーが先頭を残り1周回まで35km/h未満にコントロールしてのレーススタートとなる「クリテリウム MAX35」は、クリテリウムの経験やレースにちょっと自信がない方もチャレンジしやすい。その後、とちぎテレビ放映の地域密着ロードバイク応援番組「RideON! 2nd」の公開収録トークショーを挟んで、さらに気温が上がるなか、いよいよ QN リーグ対象クラスのエスポワール各レースがスタートとなった。

Nリーグの中学生男子（N）と女子（NW）対象のエスポワール。Cは小学4と5年生の男女、Bは小学6年生と中学1年、Aが中学2・3年生と各クラスが細かく分かれており、Nリーグでは中学1年生が対象の「エスポワールB」、そして中学2・3年生が対象の「エスポワールA」の2つに分かれるため、それぞれのレース完走者にリーグポイントを付与する。この措置により、わたらせクリテリウムではとくに中学1年のNリーグ登録選手にとって大量ポイント獲得のチャンスとなる。



エスポワールBスタートを待つ現NリーグNWポイントリーダー岡田
(左から3人目 photo: QNリーグ事務局)

まずエスポワールC、続いてリーグ対象のエスポワールBが始まった。他の各クラスと同じく競技説明の後、宇都宮ブリッツェンのゲスト選手が先導するニュートラル走行でコース1周をしてから、コントロールラインで一時停止してリアルスタート。最初の1周目は20名の選手全員が大きい集団のままであったが、2周目から集団のスピードが上がり12名までに集団が絞られる。さらに周回を重ねるごとに人数が減り最終周回の6周目直前には9名に。このエスポワールクラスは男女混走となっており、残った9名の集団にはNリーグ中学生女子NWの現ポイントリーダーの岡田 愛裕来（ブラウ・ブリッツェンU15）、そして今シーズン2戦までリーダーをキープしていた小田島 寛奈（#1-PRIMERA-）の姿も。

ラスト1周は、最初のコーナーを越えてから一気に集団のスピードが上がり3名が脱落。6名となった先頭集団が最終コーナーへ入り、ゴールスプリントで渡邊 公太（ブラウ・ブリッツェンU15）が先行、そのまま勢いを活かして前回の同大会に続く優勝を決め、Nリーグ男子N最大ポイント28を獲得した。ゴール後、レース解説を務めた宇都宮ブリッツェン小野寺 玲氏から「序盤から集団1つのままでハイペースのまま進み、最後は集団スプリントという展開になったことに関して、いかがでしたか？」と聞かれた渡邊は「今回もなんとか逃げられると思いましたが、逃げを決めることができず思いどおりにはなかったです。それでも最後にスプリントで勝てて良かった」と安堵の表情。「スプリントは得意」という渡邊には「次回は逃げきりの展開でも勝つ姿を見たい！」と小野寺氏からエールが贈られた。



思いきった仕掛けで優勝したブラウ・ブリッツエン U15 渡邊（写真左）に、自身もスプリンターとして名を馳せる小野寺氏は高評価（写真右・左が小野寺、右が優勝の渡邊。photo: QN リーグ事務局）

女子 NW では小田島が最後まで先頭集団に残り 4 位となりランキング 2 位に浮上、そして岡田が最終周回で先頭集団から遅れるも、トップとのタイム差を 6 秒にまで抑え前回の同大会よりもペースを最後までキープ。ポイントリーダー授与式では、最終周回まで先頭集団に残った手応えとして「何度もアタックとかいろいろところで（先頭を）追っていたので、最後は脚がパンパンになって千切れてしまいましたが、次回までにはもっと体力をつけて頑張りたいです！」とスッキリとした表情でコメントし、「次のレースでもバトルマリンジャージを守りたいです！」と意気込みを表明。



前回大会よりも前を見据えた力強い走りで、さらに成長を見せたブラウ・ブリッツエン U15 岡田（photo: QN リーグ事務局）

その後にスタートとなったエスポワール A はニュートラル 1 周+8 周回。現 N リーグ男子 N ポイントリーダーの落合 隼がエントリーしていなかったため、連戦連勝のポイントリーダー不在の今レースでは一気にポイント差を埋める絶好の機会となった。そんなレースは 22 名でスタートするも、こちらも積極的な展開で最初の 1 周で集団が 16 名に。中学 2 年生と 3 年生が参戦する今クラスは、ある程度レースを

こなした選手が走っていることもあり無理なペースアップで引きずり回す展開でなく、しかし決して油断ができないペースで互いの出方を見ながら、アタックが出ては吸収する繰り返し。



スタートを待つエスPOWER A の選手達 (写真左) ある程度、大きい集団となったままレースは進む (写真右・photo: QN リーグ事務局)

そんな展開で残り 3 周目には集団は 13 名、最終周回に入る前には 11 名までに絞られながらペースが上がり、最終コーナー手前で 5 名、さらにゴール前では 3 名でのスプリント。これを成瀬 謙汰 (FECT) が力強い走りで制し、N リーグ最大ポイント 28 を得た。



終始、アグレッシブな走りで前回大会の雪辱を晴らした成瀬 (photo: n.onichi)

前回の同大会では気合が入りすぎて最初の周回でタイヤが外れて落車、惜しくも DNF となってしまったが、その雪辱を見事に果たした。「ミスター・アグレッシブと解説では呼ばせていただきましたが、今日のレースはどんなプランで臨みましたか？」という解説の小野寺氏の質問に「途中、途中にアタックしながら (集団の) 人数を減らしてからのスプリントを考えていたのですが、何度アタックしてもみんな

な付いてくるので粘らなきゃいけないな」と、当初は自分の作戦どおりにレースが進まなかったことを吐露した成瀬。そんな成瀬を気遣うように「逃げるためというよりは、人数を絞るためのアタック。それが決まらなかったうえで最後のスプリントは自信ありましたか？」と聞くと「途中で1人出てくれたので（残り）3周ぐらいから持つかな？」と思いながら集団の先頭で走りました」と、そのアグレッシブさをコメントでも伝えてくれた。



レース解説を務めた小野寺氏に自分の作戦を伝える成瀬（写真左・右が成瀬）

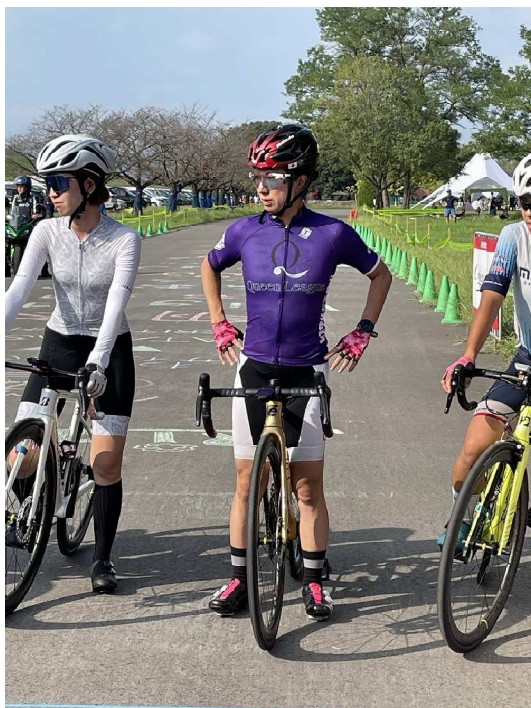
兄弟優勝を果たした成瀬や、連勝の渡邊、そしてレースを盛り上げた入賞選手たちでの記念撮影で盛り上がった（写真右）



午後の表彰式では、エスポワール各クラスの表彰式で活躍したNリーグ登録選手も表彰台に登場。

（写真左がエスポワールB、右がエスポワールA、プレゼンターは宇都宮ブリッツェン堀 孝明）

Qリーグ対象となった女子スポーツクラスは、ニュートラル1周+6周回で、午後3時過ぎにスタート。こちらは7名のエントリーで6名が出走。現ポイントリーダーの根本 香織（Team 一匹狼）も参戦。スタートは落ち着いた展開で集団はほぼ1つであったが、最初の周回で1名が脱落。その後、集団のスピードの上げ下げに翻弄された選手が脱落しそうになりながらも、集団に再び合流する。その繰り返しでレースは進行。最終周回では4名となり、そのなかから3名へと絞られ、積極的な動きだった昨シーズンQリーグ年間総合ポイントリーダーだった岡本 彩那（ブラウ・ブリッツェン）が単独で抜け出してゴールへ。見事に優勝を飾った。



女子スポーツのスタート前、Qリーグ現ポイントリーダー根本がアメジストジャージで登場（写真左）
スタート前に談笑するポイントリーダー根本（手前から2番目）と蒲原（一番手前・写真右）

その後ろから追いかける形でのゴールスプリントは、現ポイントリーダーの根本が先行し2位、Qリーグの蒲原 琴音（MINERVA-asahi）はわずかに及ばず3位入賞。それぞれリーグのランキングポイントをさらに重ねた。ポイントリーダー授与式で最後のゴールスプリントへもつれ込んだ展開について「(昨シーズンQリーグリーダー) 岡本選手が、じつは1周目で逃げを決めようとしていたので、ここで行かせてはいけない！と必死で追いかけてました」とコメント。「最後はカウンターアタックを決めたかったのですが、わずかに及びませんでした。それでも、この（リーグシリーズ）9戦目までアメジストジャージを守ることはできたので、この後のレースでも引き続きジャージを守りたいです！」と熱くコメントした。



力強い走りで見目の Team 一匹狼の根本はアスリチューン目録を手を笑顔 (photo: QN リーグ事務局)

次のリーグシリーズ第10戦は10月1日(日)にQリーグのみ対象となる「箱根ヒルクライム2023」、そして10月15日(日)は第11戦となる静岡県・伊豆サイクルスポーツセンターで開催の「JCRC legacy WR ロード：第5戦・伊豆 CSC」と続く。11月には土日連戦も予定するリーグ後半戦では、秋のロードレースから冬のクリテリウムレースに舞台が移っていくが、ますます目が離せない熱い闘いが繰り広げられるだろう。女子、そしてジュニア選手たちの活躍、引き続きポイントランキングもぜひぜひご覧いただきながら、その動向を引き続きご注目いただければ幸い。そしてリーグ登録選手達には、体調に気をつけてもらいながらレースで活躍をしてほしい。



今大会のポイントリーダー授与式では、Bioracer様より「アメジストジャージ」「バトルマリンジャージ」各リーダージャージのご提供いただきました。また、Qリーグは株式会社 隼様より「アスリチューン Qリーグポイントリーダー賞」、Nリーグ中学生男子Nは武田レッグウェア株式会社様より「RxL Nリーグ中学生男子ポイントリーダー賞」、Nリーグ中学生女子NWはアイリス株式会社様より「EXLUB Nリーグ 中学生女子NWポイントリーダー賞」を、それぞれご提供いただき授与されました。改めて厚く御礼申し上げます。

<レポート概要>

写真撮影：QNリーグ事務局、わたらせクリテリウム大会事務局、n.onichi

テキスト：須藤むつみ（QNリーグ事務局）

協力：宇都宮ブリッツェン、わたらせサイクルパーク

*わたらせクリテリウム公式ホームページ

<https://watarase-criterium.jp/>

今大会では、とちぎテレビ番組「RideON! 2nd」の公開収録で、番組出演者のレース出走や、公開トークショーが行われました。収録した番組は以下のスケジュールで放送予定ですので、ぜひご覧ください！

前編・10月2日(月) 地上波 19:00/YouTube 配信 19:30

後編・10月16日(月) 地上波 19:00/YouTube 配信 19:30

*外部リンク とちぎテレビ番組「RideON! 2nd」

<https://www.tochigi-tv.jp/program/?id=412>

次戦は 10 月 1 日（日）Q リーグのみ対象となる「箱根ヒルクライム 2023」

<https://walkride-cycling.info/hakone-hc-top/>

そして 10 月 15 日（日）は「JCRC legacy WR ロード：第 5 戦・伊豆 CSC」と続きます。

<https://walkride-cycling.info/wr-road/>

ほか Q リーグ全 15 戦、N リーグ全 13 戦で、シリーズ戦を予定しております。

<http://www.jbrain.or.jp/q-n-league/race-profile.html>

Q リーグ・N リーグの登録はこちらから。各対象レース開催日の 3 日前まで登録完了すればポイントランキングに反映。今後も女子とジュニアが活躍するリーグにご声援のほどよろしくお願いします！

<https://moshicom.com/83733/>